

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 18 日現在

機関番号：33908

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520338

研究課題名(和文) 大戦間のアメリカ南部における身体表象と人種的及び性的ハイブリディティ

研究課題名(英文) Representation of the Body, Race, and Hybridity in the Interwar South

研究代表者

森 有礼 (MORI, Arinori)

中京大学・国際英語学部・教授

研究者番号：50262829

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円、(間接経費) 510,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、大戦間期におけるアメリカ南部の人種構造の変容が、白人の自己形成において、特にその社会的・文化的側面に対してもたらした影響について、白人の身体表象の変遷を通じて確認することを目的とする。特に南部の人種的ハイブリディティが、性的身体が多様性の隠喩として認識されてきたことを、当時の白人中産階級の階級意識と関連付けて論証することを目指した。いわゆる性差、階級及び人種の区分が、多分に南部の白人の身体表象を通じて維持されていることを、主にWilliam Faulknerの1930年～1940年代の作品に焦点を当てて検証した。

研究成果の概要(英文)：This research aims to clarify that the transition of the white male body images in the interwar South reflects the relativity between racial and ethnic compositions of white people and their self-fashioning, especially focusing on its social and cultural aspects. This research has proved that racial hybridity in the American South has long been a figure of sexual perversities/variety, as well as the class consciousness of the white middle class. This research mainly deals with William Faulkner's novels in 1930s and 1940s, while some contemporary literary works such as Jean Webster's Daddy-Long-Legs and Dear Enemy.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、英米・英語圏文学

キーワード：フォークナー 南部 大戦間期 ハイブリディティ クィア 人種 精神分析

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の着想は、ノーベル賞受賞者でありながらも、アメリカ南部に取材し、その歴史を盛り込んだ作品群を残してきたために、従来地域性の高い作家であると考えられてきたウィリアム・フォークナー(William Faulkner)に対するいわゆる「文学的普遍性」を再検証するという点にあった。アメリカ南部を舞台として、南部の歴史と人種問題の桎梏を扱うフォークナーの作品群は、その地域性と歴史性に根差した作風ゆえに、逆説的に地域や時代を超越した「人間の普遍的持続性」を体現していると考えられてきたが、近年の文化研究的、批評理論的アプローチは、いかなるテキストもその地域や時代の個別性から無縁ではいられないことを明らかにしている。既にフォークナーを人種、階級、ジェンダーと言った視点から再読し、歴史的及び社会的文脈に開いてゆこうとする先行研究は多々あるが、それはフォークナーにおける黒人、北部人、外国人、女性と言った「他者」の表象に対する新たな見解こそもたらしはするものの、フォークナー自身が属する南部白人中産階級を客観化し、その内部にある他者性へと議論を進める例はほとんど見られなかった。

本論はこうした現状を背景として、フォークナー自身の「白さ(whiteness)」を再検証することを目指すことから始まった。もとより奴隷制等の歴史的背景を鑑みれば、南部において白人の白さとは必ずしも自明のものとは断言できない。白人と黒人との長い人種混雑(miscegenation)の秘めた歴史を鑑みる時、いわゆる「ワン・ドロップ・ルール」の原則の裏には、常に白人自身の「白さ」に対する強迫観念と不安とが付きまとっている。その不安を、この社会における「男性性」の不安と関連付けることで、特に世紀転換期以降、南部において「白人」で「男性」であることは常にパフォーマンスにアクトアウトされねばならないアイデンティティとなったこと、そしてその証明に失敗することが、自身のアイデンティティが排除し且つ依拠せざるを得ない「他者」との近似性をゆくりなくも示唆することに考えが至ったことが、本研究の出発点となった。

## 2. 研究の目的

本研究は、両大戦間に生じたアメリカ南部における黒人人口動勢の変容が、南部の白人の自己形成において、特にその社会的・文化的側面に対してもたらしたさまざまな変容について、白人の身体表象の変遷を通じて確認することを目的とした。特に本論で強調するのは、南部の人種的ハイブリディティにおける白人の側の自己形成の過程とその変容を、自身の性的身体多様性/クィアネスの隠喩として認識する際のその様態について、特にこの時期の白人中産階級の社会的・文化的推移と関連付けて考察するものであり、いわ

ゆる性差、階級及び人種の区分が、多分に南部の白人の身体表象を通じて維持されまた蚕食されてきたことを、特にウィリアム・フォークナーの1930年～1940年代の作品に焦点を当てて検証することを目的とした。

## 3. 研究の方法

以上の目的達成のため、南部における白人及び黒人の社会的・文化的ステレオタイプの変遷を文献実証的に検証すると共に、これらが白人中産階級の社会的・文化的及び性的マイノリティに対する抑圧的態度とその変化を反映していることを確認するために、特に精神分析的アプローチからクィア・リーディングを試みた。具体的には、一時文献を詳細に分析し、それらを社会的背景、歴史記述、文化事象の記録等と照らし合わせ、そこからかえるマイノリティ表象について抽出し、それらをクィア・セオリーに則って分析検証する手法を採った。

併せて対象作品の舞台となっている南部の社会や文化と、作品内部に表象された世界との関連を確認するために国際学会(2012 Faulkner and Yoknapatawpha Conference)にも参加し、実際に現地調査を行うと共に、関連トピックを扱う研究発表やシンポジウムを聴講した。また、関連研究を行っている研究者との共同研究発表会を開催し、議論の検証や確認を試みた。

## 4. 研究成果

本研究の主たる成果は、上述の研究方法に従った結果、特に南部の白人中産階級に属する白人におけるマイノリティが、いわゆる規範的な「男性性」の文化的・社会的・性的諸側面からの乖離もしくは逸脱として表象されていることを確認できた点にある。大恐慌をきっかけとして、特に1930年以降、南部の黒人人口は都市部への大量流出を起し、その人口動態は決定的な変化をきたすに至ったが、そうした状況において、従来の南部におけるジェンダー規範が依然として厳格に既定されまた維持されてきたと考えられていたこの時期の南部において、そこから乖離もしくは逸脱する文化的・社会的及び性的「他者」が、特異ではあるが確固とした存在として記述されていることを確認できたことは、テキスト実証的研究として大きな成果であった。

もう一点強調すべき成果は、これらの「他者」表象が人種的且つ階級的にハイブリッドな存在として表象されていることを確認できた点である。特に今次研究企画において重点的に取り扱ったフォークナーの1930年代から1940年代の作品は、従来からこの作家の人種問題に関する意識の表れを色濃く反映するものと位置付けられており、いわゆる作家研究においては、南部の人種問題、特に白人と黒人との人種混雑(miscegenation)と、その背景となった南部奴隷制を巡るフォー

クナーの白人作家としての葛藤が描かれていたと看做されてきた。しかし本研究は、それらの問題が単に人種問題に対する作家の良心の問題といった道徳的意識に還元されるべきものではなく、むしろ史実として存在していた異人種間の性的交渉、特にクイアな性的関係の可能性を表象していることを確認すると共に、人種間のヒエラルキーが一枚岩的なものではなく、むしろ南部の階級制度と、特に白人中産階級の階級意識を反映した複雑で相互干渉的な実相を呈していたことを明らかにした。換言すれば、性的交渉、殊に同性間の性的交渉を通じた階級間の越境/侵犯と人種間のそれは、言わば相互に対して二重焼きにされる形で南部の社会的・文化的規範を蚕食し無効化すると共に、その事実は当時の南部の人種的・階級的秩序の虚構性と脆弱性をも示していることを確認することができた。この点は、フォークナー研究の分野において特筆すべき研究者独自の新たな知見である。これらの研究成果は、項目5.の〔雑誌論文〕～、〔学会発表〕、～及び〔図書〕の第6章において具体的に報告された。

さらに本件に関連する研究成果として、ジーン・ウェブスター(Jean Webster)の作品群を主たる対象としたものがある。これらにおいて、研究者は広く20世紀初頭のアメリカ合衆国の人種・民族構成の変化が社会にもたらした一種の集団的ヒステリーとして、第二次移民法に結実する優生学的言説が果たした役割についても考察し、合衆国における人種に対する不安についても検証した。以上の研究成果は、平成23年度から平成25年度に亘る各種研究発表、研究論文等として公開されている。その詳細は以下の第5項を参照のこと。これらの研究成果は、項目5.の〔学会発表〕、〔図書〕の第5章及び〔その他〕のにおいて具体的に報告された。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

##### 〔雑誌論文〕(計3件)

森有礼、「失われた未来<5>：兄弟間の確執と南部の黄昏：ヨクナパトファ・サガの原型としての『埃にまみれた旗』」、『国際英語学部紀要』、中京大学国際英語学部紀要、査読有、16号、2014年、49-59

森有礼、「子供の謎と南部の過去：フォークナーの幽霊譚とビルドゥングス・ロマンを巡って」、『中京英文学』、中京大学英米文化・文学学会誌、査読有、34号、2014年、47-66

森有礼、「『エルサレムよ、我もし汝を忘れなば』における身体性の残余」、『フォークナー』、日本ウィリアム・フォークナー協会誌、査読有、14号、2012年、66-81

##### 〔学会発表〕(計6件)

森有礼、「『古い』の逆説：『野生の棕櫚』に見る老いのジェンダー表象」、フォークナーと「古い」第4回研究会(於関西学院大学大阪梅田キャンパス)、2014年3月31日

森有礼、「子どもの謎と南部の過去：フォークナーの幽霊譚とビルドゥングス・ロマンを巡って」、日本イギリス児童文学会第43回研究大会(於大阪産業創造館)、2013年10月26日

森有礼、「カラーブラインド・フォークナー? 性差と人種のパリンプセストとしての『アブサロム・アブサロム!』と『エルサレムよ、我もし汝を忘れなば』」、中・四国アメリカ文学会第42回大会(於松山大学)、2013年6月8日

森有礼、「兄弟間の確執：ヨクナパトファ・サガの原型としての『埃にまみれた旗』」、関西フォークナー研究会2012年度第1回例会(於龍谷大学)、2013年3月30日

森有礼、「A 'Gypsy' Girl Becomes American: The Assimilation of Literary Orphans in Jean Webster's *Daddy-Long-Legs*」、International Symposium Race and Ethnicity in American Literature and Culture: A Redonsideration(於名古屋大学)、2013年3月17日

森有礼、「If I Forget Thee, Jerusalemにおける身体性の残余」、日本ウィリアム・フォークナー協会第14回全国大会シンポジウム「フォークナーと身体表象」(於関西学院大学)、2011年10月7日

##### 〔図書〕(計1件)

細川美苗、辻祥子、新井英夫、森有礼、音羽書房鶴見書店、『越境する英米文学 人種・階級・家族』、2014、203(研究代表者は本書第5章「ジーン・ウェブスター屋根裏の狂女、大西洋を渡るウェブスターにおける女性、人種、そして優生学」及び第6章「ウィリアム・フォークナー カラーブラインド・フォークナー? 『アブサロム・アブサロム!』と『エルサレムよ、我もし汝を忘れなば』における「白人に成りすました男達」」、並びに「はじめに」を執筆)

##### 〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕（計1件）

森有礼、「「ジプシー」の少女、アメリカ人になる：『あしながおじさん』におけるアメリカの孤児と同化の(不)可能性」(研究ノート)、『国際英語学部紀要』、中京大学国際英語学部紀要、査読有、15号、49-59

6. 研究組織

(1) 研究代表者

森 有礼 (MORI, Arinori)  
中京大学・国際英語学部・教授  
研究者番号：50262829

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし